

## 書評

## 世界の土・日本の土は今 地球環境・異常気象・食料問題を土からみると

日本土壌肥料学会編 A5版 126頁, 農山漁村文化協会, 定価 1,000円+税

「国際土壌年頑張ってるなあ!いま本屋に行ったら、国際土壌年の本が仰山積んであって驚いたわ!」ある日、大学の廊下で他分野の先生に話しかけられた言葉である。今年各地で国際土壌年を記念した土の書籍フェアが行われており、目にした方も多いのではないだろうか。本書は、そこに並ぶ本の筆頭であり、国際土壌年の趣旨を伝えるべく、日本土壌肥料学会の「社稷を思う心を一にする志士たちの愚直なまでの、しかし、着実な研究に裏付けられた熱きメッセージ(まえがきより)」がまとめられている。

国際土壌年の趣旨は、土壌に対する認識の向上と適切な土壌管理を支援するための社会的意識の醸成である。国際連合食糧農業機関(FAO)によると、世界の土壌資源はいま33%が劣化しており、5万km<sup>2</sup>というコスタリカの面積に匹敵する表土が毎年失われ、ヨーロッパだけで1時間に11haの都市化が進んでいるという。このまま新たな対策が講じられなければ、あと60年のうちに世界中の表土は失われるとする推計もある。しかし、私たちはこの事実をどこか遠い国の出来事のように思っていないだろうか。本書は、それがいかに無責任で、誤った考えであるのかを突きつけてくる構成となっている。

パート1「土のことを考えてみよう」は、9頁と非常に短い。しかしその中に、地球規模の環境問題や食糧問題、さらには異常気象や紛争と土壌劣化との関係が述べられ、古代文明の発展と衰退の原因となった土が、現代もなお、私たち人類の持続可能性の原点であることが訴えられている。

パート2「なぜ土壌は劣化するのか」では、私たちが土壌の不適切な利用を続けてきた結果、世界各地で顕在化している様々な土壌劣化の事例を紹介している。アフリカ・サヘルの砂漠化と風食、東南アジアの水食、灌漑による土壌塩類化、肥沃な黒土地帯の有機物減耗が取り上げられているが、いずれも筆者らが現

地に何度も足を運び、積み重ねていった研究の成果である。劣化の現状や科学的な劣化のメカニズムがほぼ解明されているだけでなく、その地域の実情に即した対策技術が構築されつつあることに驚かされる。

パート3「世界の土壌 日本の土壌」は、基礎に戻って土壌の定義や種類の話となる。1つ1つの土壌型について簡潔かつ愛のある紹介がされているが、正直なところ、近い分野の研究者ですら敬遠しがちな土壌分類の話、専門家ではない読者が読み進めるのは苦勞するかもしれない。しかし、健康な身体と生活を知らずして病気やその治療法を語れないことを思うと、その土地の環境が生んだ元氣な土壌を知ることは、劣化土壌の原因や保全を考える上で必須であることが理解できよう。

パート4「田んぼの土を考える」では、縄文時代から日本の社会を支え、中心であり続けた田んぼに焦点が移る。数千年にわたる永続的な生産を実現してきた田んぼと水田土壌の優れた機能が化学的・生態学的・文化的な視点から解説され、本文中の「田んぼは私たちを守っている」という言葉がすんなり理解できる。しかし、ここ数十年でそんな水田土壌にも異変が訪れているという。減反による田畑輪換である。水田の畑地化は、土壌中の炭素・窒素を減耗させ、地力の低下を引き起こすのだという。さらに、この問題には、農家の高齢化、米価の低下、土づくりの下火化、食の多様化といった様々な背景が潜んでいること、さらに、日本だけではなく、近いうちにアジア地域全体の問題となるであろうことが指摘されている。

話は終わりではない。パート5「食と農業から土壌と環境を考える」では、「私たちの食が日本の土壌と環境を壊している」と警鐘を鳴らす。食飼料の輸入により、過剰な窒素が日本の土壌や環境に大きな負荷を与えていることが示され、これが輸出国の土壌資源の収奪につながっている現状を強く訴えている。そして、

これらを踏まえた上で、私たちはどのような選択をしていけばいいのか、という問いかけが残される。

最後まで読むと、土壌劣化は決して遠い国の出来事ではなく、また、私たち個人の力ではどうすることもできない問題でもなく、何を買うか、どこに住むか、そういった日常の選択の積み重ねの結果なのではないかと気付かされる。そして、「土壌のことを考えよう。必要な行動を起こそう。(あとがきより)」という気持

ちにさせられる。本書には、各節に「編集者」の短いコピーが記されている。それが、志士たちの熱きメッセージを最初に受け取った編集者の行動に思えて印象深い。さて、私はといえば、まず両親にこの本を送ることにした。みなさまも、一読はもちろんのこと、ぜひ周囲に薦めて、土壌について語り合うきっかけを作る一冊にしてはどうだろうか。

(高橋純子)